

避難支援個別計画の策定

田ヶ原自主防災会

会長 頼正 康生

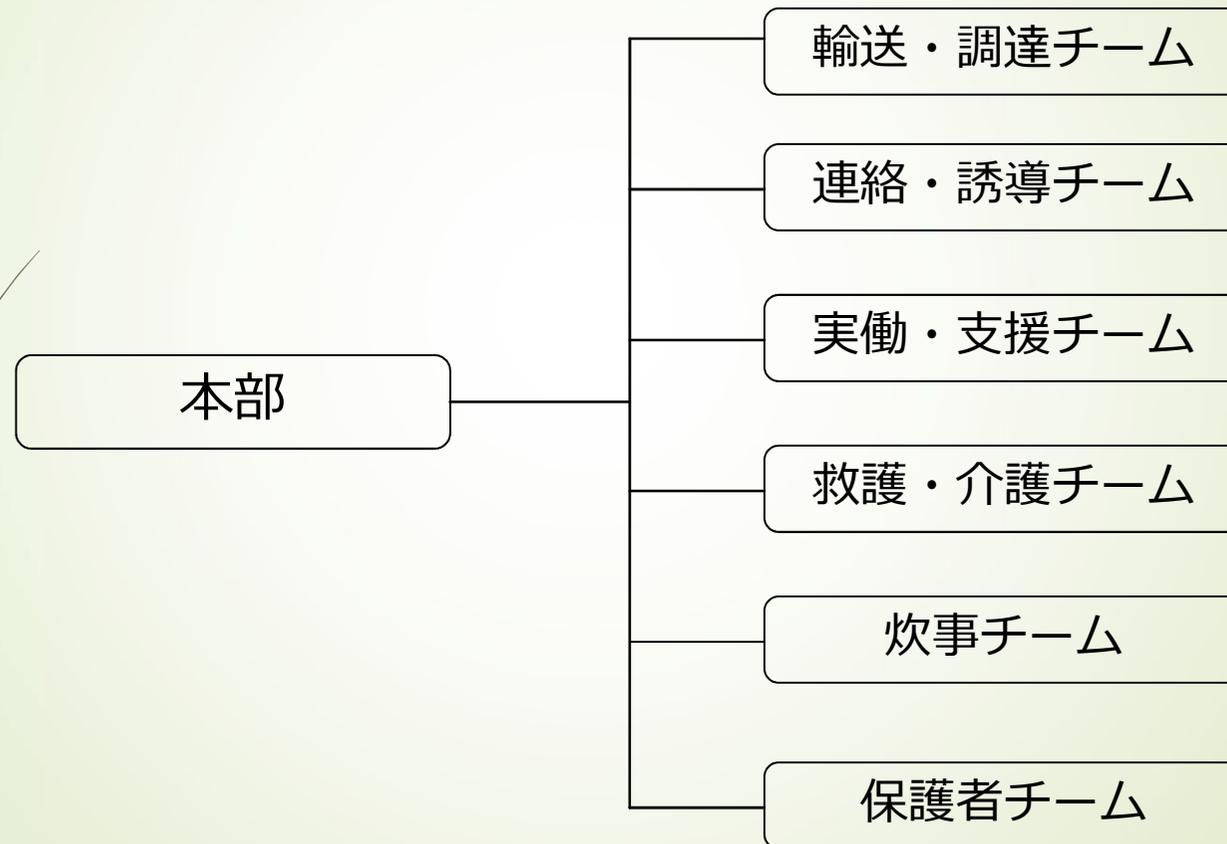


田ヶ原自主防災会について

- ▶ 平成24年1月15日に防災対策の基本理念や田ヶ原区で想定される災害、自主防災組織の編成、災害時の体制について記載した「**田ヶ原区防災対策マニュアル**」を策定。
- ▶ 区民全員に配布し、防災意識の高揚を図っている。

田ヶ原自主防災会について

○災害対策本部組織図



災害対策本部編成について

編成にあたっての基本的考え方

- ①原則として、80歳以上、要支援者、小学生以下の子どもを除き、できるだけ多くの区民が参加・協力する。
- ②要支援者や子どもがいる場合、家庭を最優先する。
- ③区長が本部長、区長代理が副本部長
- ④各チームにはリーダー1名、サブリーダー2名を配置
- ⑤各チームの構成員は、毎年4月に役員会で見直し



避難支援個別計画とは

- ▶ 災害発生時、または災害が発生する可能性が高まった際に、高齢者や障がい者などの要配慮者に対して、どのような経路で、どういう方法で避難するか、または誰が避難の支援に行くのかなどを盛り込んだ計画。
- ▶ 田ヶ原自主防災会では、要配慮対象者21名の中から令和元年度に岡山県のモデル事業として、6名を選び、個別計画を作成しました。作成後には、実際に避難訓練を行い、計画の実効性を検証しました。

避難支援個別計画策定の流れ

自主防災会議での意思決定・区民への周知

対象者の決定

対象者への聞き取り調査

災害時ケアプラン調整会議
(対象者と地域の方々が、一緒に避難方法等を協議)

避難計画プラン作成

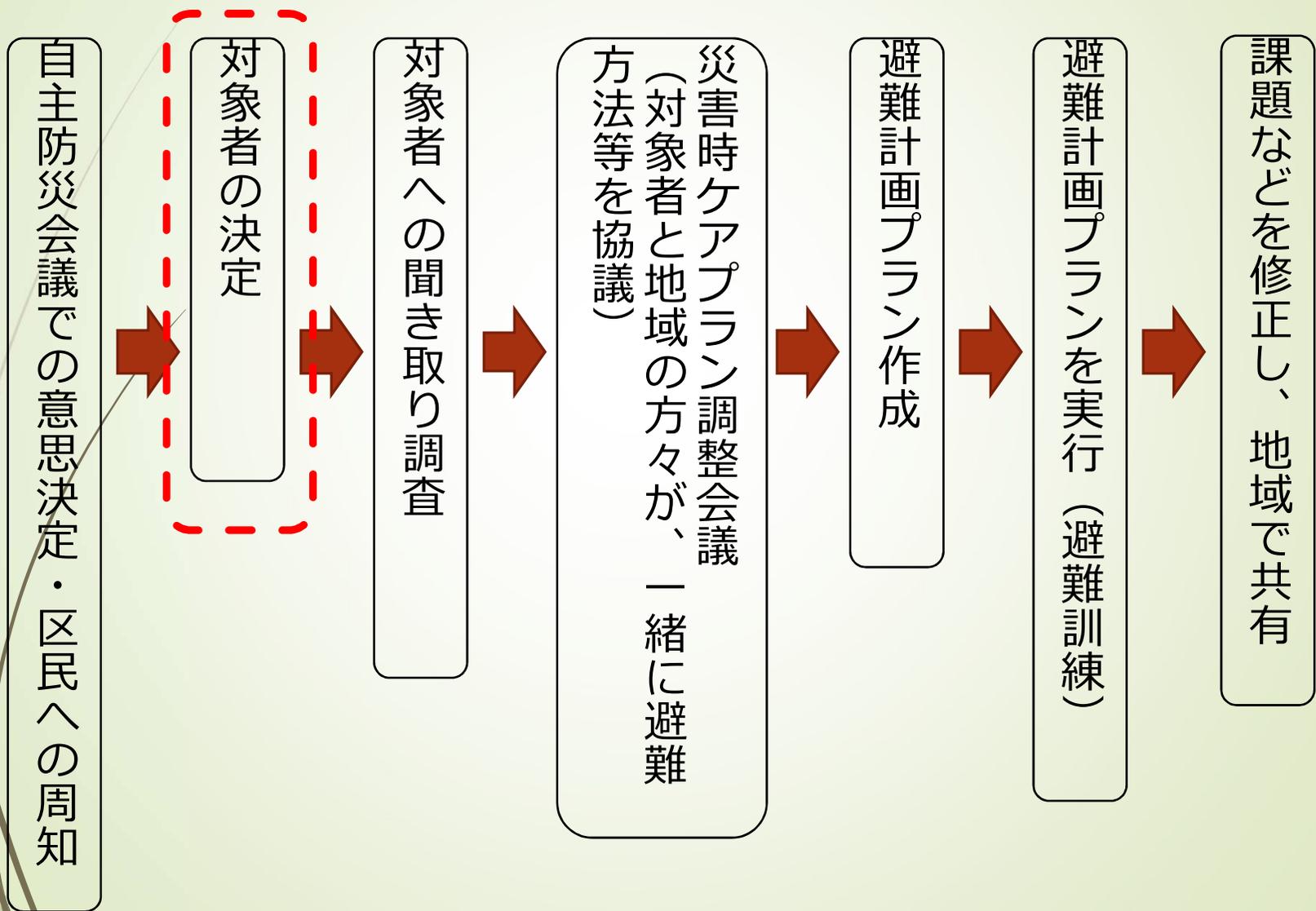
避難計画プランを実行 (避難訓練)

課題などを修正し、地域で共有

令和元年第1回防災対策本部会議を開催 (R1.6.23)



避難支援個別計画策定の流れ



対象者の決定

■ リストアップの基準

- ① 75歳以上の独居者
- ② 夫婦の両方または一人が80歳以上の高齢者のみの世帯
- ③ 同居人はあるが昼間は80歳以上の単身高齢者または夫婦になる世帯
- ④ 何らかの障害をお持ちの方

■ 対応方法

- ① 自己対応（健康で自分で対応できる）
- ② 自家対応（家族または同居人で対応できる）
ただし、昼間に家族・同居人がいない場合は除く
- ③ 区対応（支援者を必要とする）

これらを基準に対象者の一覧表を作成。

要支援者・高齢者・独居者一覧表

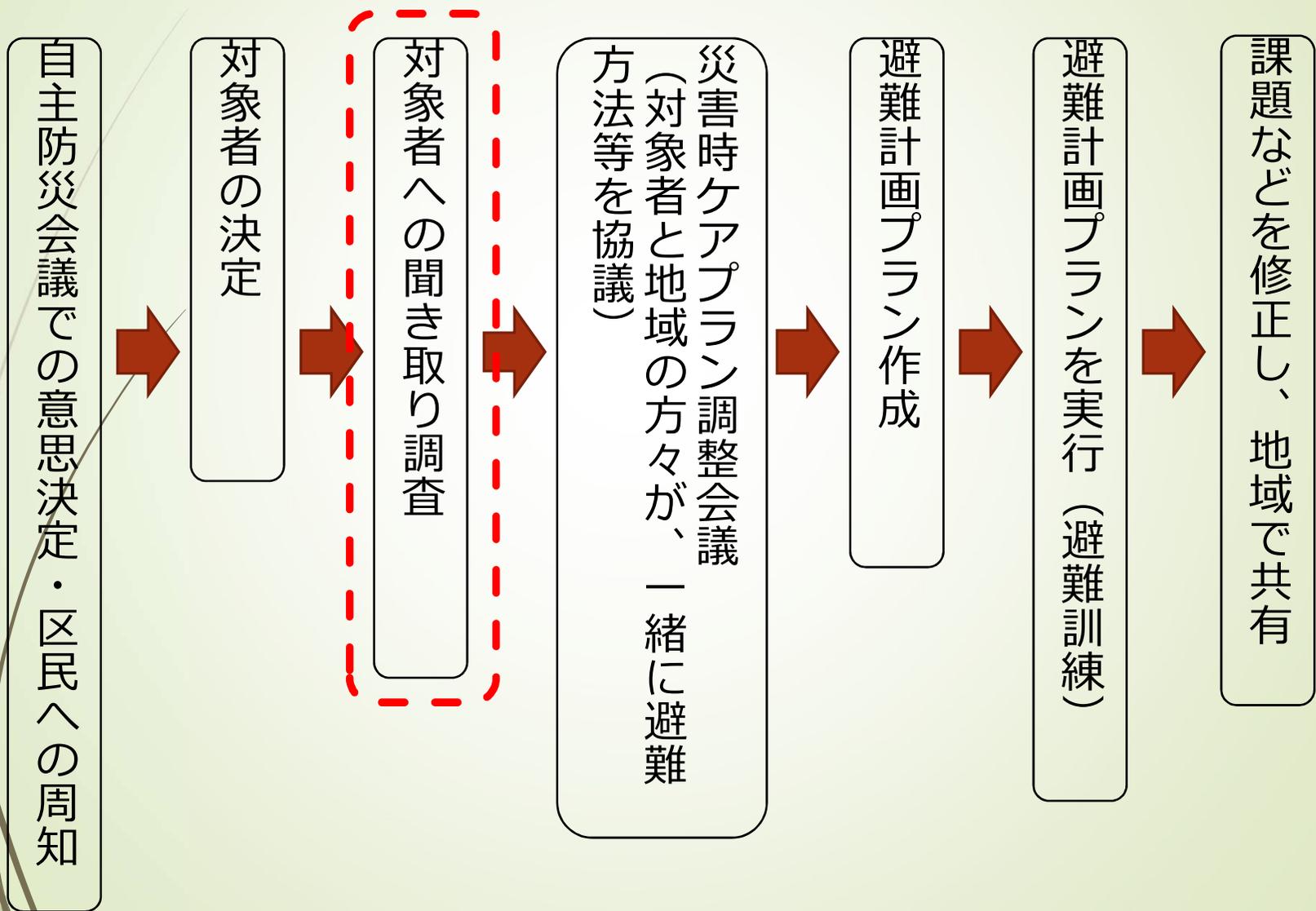
(資料3)

田ヶ原区(要支援者・高齢者・独居者)一覧表

- 【リストアップ基準】
- ①75歳以上の独居者
 - ②夫婦の両方若しくは一人が80歳以上の高齢者のみの世帯
 - ③同居人のある80歳以上の単身者高齢者及び高齢者夫婦
 - ④何らかの障害を持つ方
- * 以上の中にデイサービス及びホームヘルパー利用者を含む
- 【対応の方法】
- ①自己対応(健康で自分で対応できる)
 - ②自家対応(家族又は同居人で対応できる)
但し、昼間に家族又は同居人がいない場合は区対応とする
 - ③区対応(支援者を必要とする)

非表示

避難支援個別計画策定の流れ





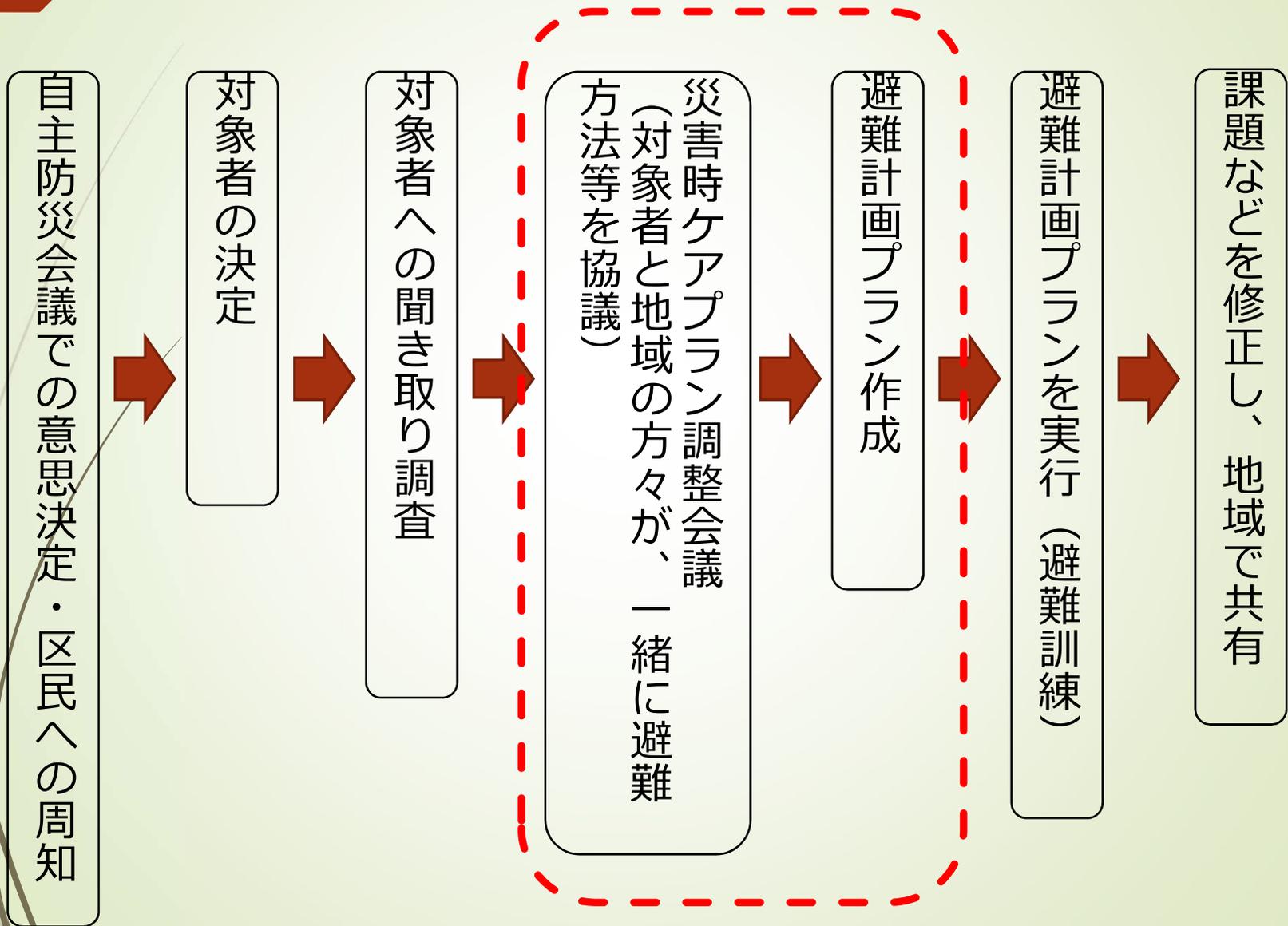
対象者への聞き取り調査

- ▶ 対象者の身体の状態や生活環境、一日の生活の流れ、災害への備えなどを聞き取り
- ▶ 自宅の災害リスクを確認
南海トラフで震度想定、浸水想定、断水期間など
- ▶ これらを合わせて、災害時の避難に備え、どのようなものをどれくらい備えていないといけなのかを把握するとともに、意識づけができる。

ケアマネージャー（役場職員）と地区住民 が一緒に聞き取り



避難支援個別計画策定の流れ



災害時ケアプラン調整会議

▶ エコマップ（対象者と家族、付近住民との関係性を図にしたもの）の作成

・ 家族の情報

家族構成、家族の年齢、子供の居住地など

・ 地域で仲良くしている人

よく訪ねてくれる人、民生委員など

・ 医療、福祉機関

通院している病院、デイサービスやヘルパーの有無

▶ 避難経路・避難方法の確認

自宅から避難所までの避難経路を地図で確認するとともに、避難支援者の自宅との関係性も確認。避難方法（車いすやリヤカー、自家用車など）も決定。

実際に会って話しながら決めることで、顔の見える関係作り

災害時ケアプラン調整会議



エコマップ

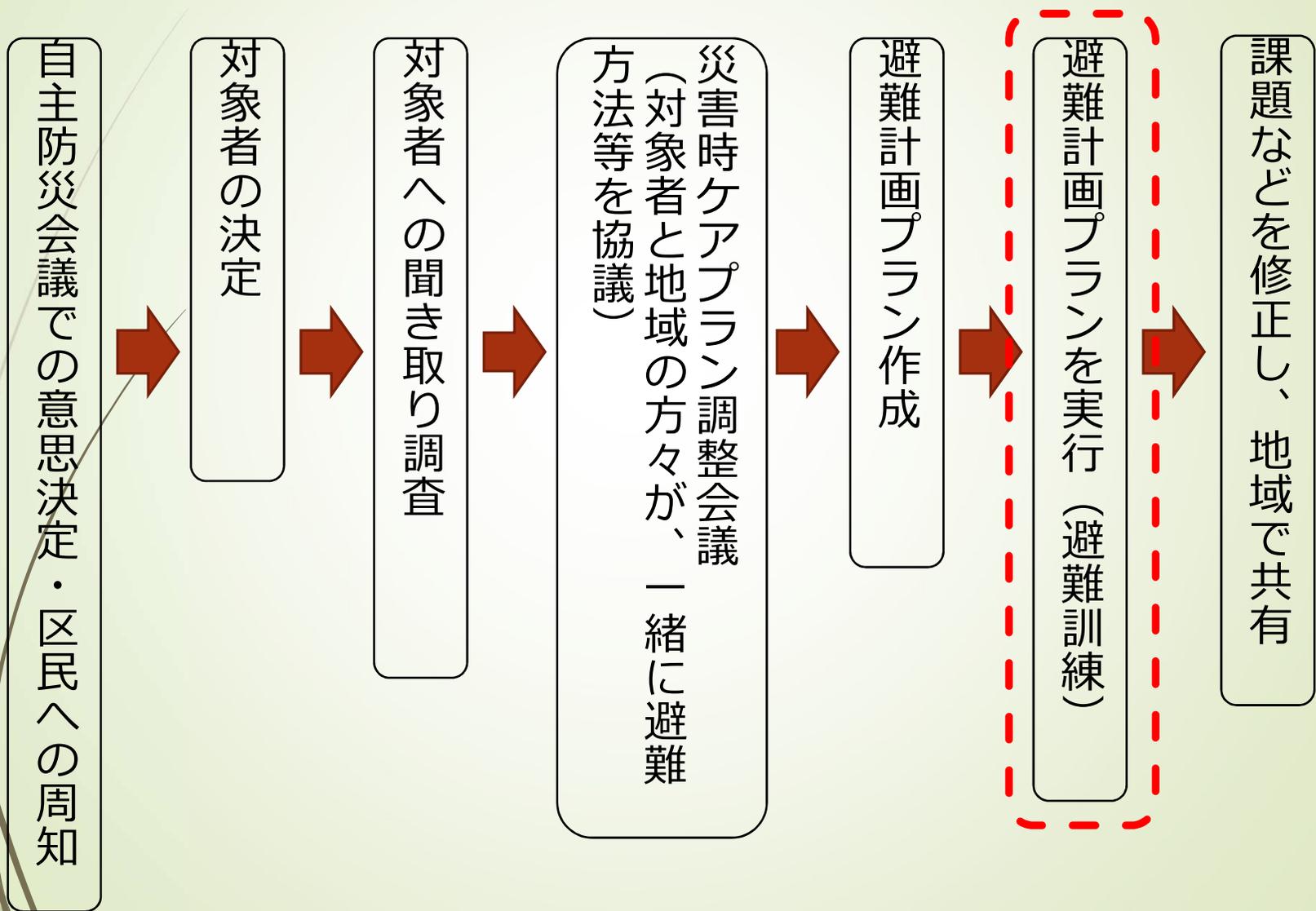
非表示



避難経路図

非表示

避難支援個別計画策定の流れ



避難訓練の実施（令和2年12月15日）

▶ 訓練想定

秋雨前線による大雨により、河川の水位が上昇したため、町内全域に「レベル3避難準備・高齢者等避難開始」を発令。田ヶ原区の住民が避難所である和気小学校に避難する。

▶ 各チームの対応訓練

実働チーム・支援チーム・・・消防車で区内を巡回、避難誘導

連絡・誘導チーム・・・未避難者の確認、避難援助

輸送・調達チーム・・・炊事道具の搬送、駐車場整理

炊事チーム・・・炊き出しを行う

介護・救護チーム・・・介護や救護が必要な避難者対応

保護者チーム・・・避難所内での子供の見守り

▶ 要支援者の避難

作成した計画に基づいて、支援者2名が自宅まで出向き、避難準備等を確認し、避難経路を通過して避難所まで避難支援を行う。

訓練の様子（リヤカーでの避難）



訓練の様子（車いすでの避難）



訓練結果

■ 良かった点

- ・ 避難誘導や避難支援がスムーズに行うことができた。
- ・ 避難支援をする際に、注意する箇所の把握ができた。
- ・ 各チームの災害時の行動を確認できた。

■ 課題や反省点

- ・ 訓練当日は、晴れていたためスムーズに訓練が進んだが、実際には雨が降っている可能性も高く、雨天時の避難支援も想定する必要がある。
- ・ 大雨や台風ならある程度予測ができるが、地震は発生の予測ができないため、避難支援者が不在の可能性もある。

活動報告

- ▶ 自主防災組織を対象とした研修会で活動報告
 - ・令和2年11月15日(日)に2会場で町内の自主防災組織を対象とした研修会を行い、その中で避難支援個別計画についての活動報告を行った。
 - ・研修会の後、他の自主防災会の会長から問合せがあったことから、他の自主防災会も個別計画について関心を持ってもらえたように感じている。



まとめ

- 避難支援個別計画の基本は、「自助」と「共助」
- 避難支援個別計画の存在が、いざというときの対応の大きな柱になる。
- リスクをより少なくするために訓練を定期的に行う必要がある。
- 「要支援者が住みやすい町」 = 「誰もが住みやすい町」となる。誰もが住みやすい町となるため、各区で計画策定に取り組んでほしい。